

遠野東中学校区の取組の総括（概要版）

遠野東中学校区研究員部会

1 遠野東中学校区の課題

（1）児童生徒の実態

- 相手の言葉をしっかりと受け止めたり、しっかりと聞いたりして互いの考えを深めようとする学習規律がかくりつさされてきている。
- 具体的な言葉で、明確に、そして自分の言葉として伝える力が不足している。
- 授業以外の個々の家庭学習時間の不足と学習内容について見直していく必要がある。

（2）授業者の実態（課題）

- ・本学区の「2つの視点」に基づいた授業実践を積み重ねていくこと。
- ・毎時間の振り返りを大切にして、充実を図り、児童生徒自らが疑問・課題・成果を実感できるように仕組んでいくこと。
- ・学区共通の「学習規律スタンダード」と「家庭学習強化週間」の取組みの共通理解と、より一層の徹底を図ること。

2 今年度学力向上取組の方向性

（1）授業改善の2つの視点

- | | |
|------------|------------------|
| 視点1 | 意欲を高める学習課題の設定 |
| 視点2 | 言葉をつなぐ全員参加型の言語活動 |

（2）今年度の重点取組

【視点1について】

- ① 児童生徒が学びを経て授業のゴールで、「自分はどのような姿になっていれば良いか」がわかる課題設定を心がける。
- ② 前時の振り返りで、児童生徒の言葉による振り返りを紹介することで、容易に次時の学習課題がイメージできるように取り組む。
- ③ 児童生徒と教師が学習内容を共有しながら学習していくために、単元構想表や学習計画表を作成し、活用していくこと。

【視点2について】

- ① 「相手の話をよく聞くことができる」「分からないから教えて」と言える雰囲気作り、「つぶやきを皆で共有できる」学級経営や教科経営を大事にする。
- ② 個⇒ペア⇒グループ⇒全体という段階を踏まえたグルーピングや言語活動の展開、そして個の振り返りなど個に帰着する場面の設定を行う。
- ③ 「わかった」という段階から、「できた」「解くことができた」「説明できた」という段階まで進化させる

3 具体的実践（授業交流会・学校公開研究会・校内研究会等について）

（1）授業の概要

- ① 令和元年 5月30日（木） 遠野市立遠野東中学校
- ア) 1年A組 英語「ウッド先生がやってきた」 授業者：教諭・菅原 秋哉
- イ) 1年B組 保健体育「体の発育・発達」 授業者：教諭・舘林 啓二
- ② 令和元年 8月30日（金） 遠野市立上郷小学校
- ア) 3年 算数 「かけ算のしかたを考えよう」 授業者：教諭・泉田さとみ
- イ) 5年 算数 「分数と小数・整数の関係を調べよう」 授業者：教諭・伊藤真知子

（2）実践を通じて明らかになったこと

<第1回 英語分科会>

- VTRを効果的に導入時に使用して、ゴールであるべき姿を示したことで、意欲的に学習に臨もうとする意欲や意識の持続が見られた。
- 学習を進める土台となる「学級づくり」が良くなされており、互いの意見や思いを大事にする姿勢が定着していた。
- 「全員参加型の言語活動」の見取り、定義づけについては今後への課題となった。

<第1回 保健体育分科会>

- 導入時にパワーポイントやビデオを効果的に活用し、生徒自身が「自分事」として課題設定に臨む姿が見られた。
- 生徒の疑問や声を拾い上げた主体的な課題設定の工夫が必要である。
- 言語活動においては、児童生徒自らが「知りたい」「調べたい」「わかるようになりたい」と主体的になれるような発問の吟味と工夫がほしい。

<第2回 3年生分科会>

- 既習事項の活用と気づきを促す発問の工夫が見られ、児童が主体的に課題設定に繋げることができた。
- 発表の中から大切な言葉を書き残すことで、まとめの際に自分たちでできるように定着されていた。
- たくさんのことを丁寧に説明したくなるが、教師はあくまで司会者的立場でありたい。

<第2回 5年生分科会>

- 子どもたちの素直さや明るさが伺える授業であり、学習規律や前向きに学習に取り組む様子が見られた。
- レディネスを揃えるための事前指導が徹底されており、学習スピードの育成につながっていた。
- 「いろいろわかった」という振り返りにならないように、具体的な言葉で振り返るように促したい。

4 諸調査結果等の結果考察（児童生徒及び授業者の変容）

- ・県学習定着度状況調査において、「授業の内容がよく分かる」「分かる」という肯定的な回答の割合が県の指標を小中ともに超えており、良好な傾向にある。

（小93.3%【県90%以上】、中82.8%【県80%以上】）

- ・質問紙の「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いませんか」という設問に対し、学区全体を見るとかなりの上昇傾向にあり、自分の意見を伝えることに自信をつけてきている児童生徒が増えてきていると思われる。
- ・市教育研究所による質問紙調査においても、県学調と類似した設問に対する回答で、学区全体を通して肯定的な回答が多かった。しかし一方では、少数ではあるものの否定的な回答もあることから、そういう児童生徒への指導の手立てを講じていく必要がある。（抜粋）

問題番号	質問内容	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
No, 1	授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思えますか。	32.5	53.0	12.1	2.4
No, 2	授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	50.7	38.0	9.2	2.1

5 成果（○）と課題（●）

- 各校においてICT機器や既習事項の活用など、様々な工夫を凝らした課題設定への取組みの実践が積み重ねられてきている。
- 学区の「学習規律スタンダード」をベースにした学習規律が定着してきており、主体的に学習に向かおうとする姿、一人ひとりの考えを大切にしたい授業が見られるようになってきている。
- 興味や探究心を抱かせる発問の工夫は、今後とも継続課題となる。疑問やつぶやきを活かしながら主体的に課題設定に関わる児童生徒の育成を図りたい。
- 視点2「言葉をつなぐ全員参加型の言語活動」については、その定義や捉え方が多様であることから、活動内容や発問を含めた実践の積み重ねと共有をより一層図っていき、実態に応じた指導に活かせるようにしていく。
- 職員全員が一丸となって指導にあたるために、「遠野市授業づくりスタンダード」を年度当初に共有すること。

6 次年度の取組の方向性

- *「遠野市学力向上アクションプラン」「遠野市授業づくりスタンダード」の推進を念頭に置いた授業づくりを推進し、学区の2つの視点を更に深めていく。
- *学習意欲の向上と持続のために「単元構想表」や「学習計画表」を積極的に取り入れながら指導内容の向上に努める。
- *実践の積み重ねと交流・共有を積極的に図り、意欲を高める発問についても言及していく。また振り返りでは、児童生徒が自分の言葉で具体的に話したり、書いたりできるように指導を進める。